

台風と長雨がつづいていて、体調に気をつけて、お過ごし下さい。



日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート
日本共産党議員団
2021.8.19. No. 1821.
御相談はお気軽に
TEL/FAX とも **3905-0970**
さがらとしこ事務所
赤羽北3-23-17
(バス停「赤羽北3丁目」メガシティ近く)

区長に新型コロナ感染症対策と求め緊急要請しました。

8月17日、日本共産党北区議員団と池内さおり衆院前議員とそね都議

● 8月に入り、北区も感染者数の累計は5000人を突破。8月13日には6,299人と2週間のうちに1,234人も増加し、とて収束は見通せない状況です。
● もうすぐ夏休みも明けて、学校もはじまります。心配なことは、子どもたちの中にも連日、陽性者が確認されていることです。命よりも五輪を優先させた菅首相と池都知事の政治の責任が大きいと思います。● こうした中で、右のような内容で、花川区長に緊急要請をおこないました。

8月13日、東京は5773人に自宅での療養者は、全国で2万人を突破し、さらに急増。

北区のワクチン予約について、12歳以上の方の追加予約を発表。詳細は9月リリース。8/28(土)正午。



4 8月17日、北区長室で、左から野々山区議、池内前衆院議員、山崎区議、花川区長、そねはじめ都議、せいひの区議(9名の区議員団は代表参加)

● **そね都議**は、都立・公社病院の独立化をおこなおうとしている都知事に、区長、そして区長公として反対の意志を表明していただきたいと求めました。

● **池内前衆院議員**は、ワクチン接種を希望している30代が、ワクチン不足で予約できないと訴え

区長: 要請について、「国、都、関係自治体とも連携し、1日も早い感染収束に向けて努力してゆく」と述べました。

私、さがらは、学校連携観戦は、パラリンピックでも行うべきではないと思っています。あらためて、決断を。

1、国及び東京都に対し、以下の事項を求めること。

- ①東京パラリンピックの開催を中止すること。
- ②中等症患者の入院を制限する政府方針を撤回すること。
- ③感染者の健康観察、医療管理のために、必要な医療スタッフ、宿泊療養施設の確保、臨時の医療施設や入院待機ステーションを設置すること。
- ④ワクチンの安定的な供給と確かな情報提供を行うこと。
- ⑤大規模なPCR検査を実施し、無症状感染者の発見・保護を徹底すること。
- ⑥都立病院・公社病院の地方独立行政法人化は直ちに中止し、新型コロナ対応に集中できるようにすること。
- ⑦自粛、休業、在宅ワークなどに対する十分な補償を行うこと。

2、区として以下の事項を実施すること。

- ①積極的疫学調査、健康観察を実施できる保健所体制の人員強化を行うこと。
- ②PCR検査で陽性になった人に、血液検査・ウイルス検査など早期診断を行い、優先病床を確保し、抗体カクテル療法など重症化予防をすすめること。
- ③北区としても独自に、宿泊療養施設や臨時の医療施設を確保すること。
- ④医師会などと連携し、電話対応も含めた自宅療養者への訪問・オンライン診療を行うなど、コロナ在宅療養支援体制を構築すること。
- ⑤定期的PCR検査の対象を、高齢者などの通所・訪問介護事業所や保育園・学校へ拡大し、家庭や事業所へも検査キットを配布すること。
- ⑥ワクチン供給の見通しや接種情報を、医療機関や区民に対し、きめ細かく示すこと。

以上



笑って あきれ 怒って 選挙に行こう

映画「パンケーキを毒見する」 内山監督と小池龍齋語り合う

～2021年8月12日付「しんぶん赤旗」3面より～

菅義偉首相の実像に迫ったドキュメンタリー映画「パンケーキを毒見する」(新宿ピカデリーほか)は大ヒット公開中で上映館が全国に増えつつあります。同映画の内山雄人監督が10日夜、日本共産党のインターネット番組「生放送!とことん共産党」に出演し、製作の裏話や共産党のイメージなどについて司会の小池龍齋書記局長と縦横に語り合いました。内閣官房機密費の問題をスクープし、映画に登場する「しんぶん赤旗」社会部の矢野昌弘記者も出演しました。

生放送!
とことん共産党



映画「パンケーキを毒見する」ポスター

番組のオープニングに流れたのは映画のエンディングテーマ曲。司会の朝岡晶子さんが「監督と語り合う。菅政権論。笑って、あきれ、怒って、選挙に行こう」という番組のテーマと監督の経歴を紹介しました。

内山さんは「政治ドキュメンタリーというジャンルは観客が限られる。むしろ『政治に関係ない』というように人に届けたい。難しくなく笑わせる構成にすることで政治バラエティーのようなどっつきやすさで見てもらえれば」と話しました。

映画は菅首相を知る人の証言を聞こうと取材し、ほとんどの関係者に断られます。他方で日本共産党の国会質問や「赤旗」編集の舞台裏を探っています。

ドキドキの訪問

小池さんが「共産党の『赤旗』になぜ取材を?」と尋ねると、内山さんは「国会にテーマが上がるようなスクープをするのは『週刊文春』か『赤旗』のどちらかしかない。ドキドキしながら党本部に初めて来たら日曜版編集長が気さくな感じで応対してくれた。魅力的な人が多かった」と語りました。

映画では小池さんと菅首相の論戦の様相を「国会パブリックビューイング」の上西亮子法政大学教授が解説します。NHKニュースでは、かみ合わない首相の答弁が、ちゃんと答えているかのようには編集されませんが...

難しくなく笑わせる構成 ■「政治関係ない」という人に届けたい

内山さんは「報道として情報を伝える意味をなしていない。思考停止に近い判断で編集されている。小池さんのおかげで、国会ってこんなに笑えるぞというのが面白いところ」と紹介。小池さんは「僕も笑っちゃったけど頭を抱える。(空疎なやりとりが)安倍前首相の頃から続いてきたが、菅首相との議論はむなしさが出てくる」と話しました。

共産党の魅力は

内山さんは「一般の人が気づかない共産党の魅力は?」「共産党には、閉じた『難しい』イメージがある。弱点は?」と小池さんに問いかけてました。

党の魅力について小池さんは、国会質問をつくりあげる上で議員だけでなく秘書、中央・地方の党職員、赤旗記者など全国の党組織の支えがある、他党にはない利点を強調。「党のマンパワーと共産党なら追及してくれるという信頼があっ

て情報が寄せられる。政治を何とかしたい、苦しんでいる人を何とか救いたいという怒りや思いが質問の切れ味を磨いている」と実感をこめて答えました。

党へのマイナスイメージについて小池さんは、発達した資本主義から出発していないソ連や中国の成り立ちと、日本での社会変革の違いを説明。「暴力革命の方針を掲げたことは一切ない。誤解や偏見を解く努力を積み重ねていく。この映画は、党内や『赤旗』でどんな議論をしているのが取材した、かつてないもの。僕らにも力になる」と答えました。

映画のナレーターで俳優の古舘真治さんが「投票率80%が日本人の革命」と呼びかけていることについて、小池さんは「今度の選挙で変えなきゃもうダメじゃないかと。僕らも危機感や熱量を共有していかねれば」「投票で政治に参加する。投票率さえ上がれば日本の政治は変わる」と言及。内山さんは若い世代が未来に夢を持っていない日本の現状を「おとなの責任だ」とのべ、「コロナ禍は政府のせいだと気づいてもらい、選挙にぜひ行ってほしい」と若者へメッセージを送りました。